

命を救い、看取りにも寄り添う

2014年1月より運用が始まった中津川市民病院のドクターカー。365日24時間対応で、昨年度の出勤要請は550件。初年度の2倍にまで増大し、患者の救命率や社会復帰率を驚異的に向上させました。導入から5年目を迎えたいまも、地域の人々を救うために走り回っています。

Information
 総合病院 中津川市民病院
 中津川市駒場1522-1
 代表電話0573-66-1251
<http://nakatsugawa-hp.jp>

中津川市ならではのドクターカーの役割

中津川市民病院は、東濃地方東部および長野県南部を含む中山間地域を診療圏とする中規模総合病院。また、急性疾患または重症患者の治療を24時間体制で行っています。

責務は大きい。その役割を遂行する上でドクターカーは多大に貢献しています」と話します。

消防署の要請のもと救急車と同時に出動し、現場へと向かうドクターカー。救急外来と同じように、医療従事者が処置や検査できる資器材を載せています。中津川市民病院は乗用車型で、患者の搬送は救急車が担当します。24時間365日、医師が待機しています。

「患者の立場を十分理解し、質の高い医療を目指す」という理念のもと、急性期医療の中核病院として機能を強化。在宅医療を受けている患者が急変した場合に受け入れる地域包括ケア病棟を運営し、地域医療の担い手として、地域の医療機関と連携して患者の回復期や在宅医療を支援しています。

「都市部での普及はすでに始まっていましたが、このような中山間部では初の試みでした。山奥の小さな集落の現場も多く、役割は命を救う救急医療に留まりません。患者さんが蘇生しない場合にはご家族のご希望と、かかりつけ医の先生方の許可を得て、看取りもしています。昨年は134人の患者さんがご自宅で最期のときをお迎えになりました」と安藤病院



総合病院中津川市民病院 病院長
安藤 秀男さん



総合病院中津川市民病院 病院前救急診療科部長
間測 則文さん



総合病院中津川市民病院 病院前救急診療科看護師
比嘉 徹(てつ)さん

研修や実習を通して、中津川市民病院を希望する医師や看護師が現れ始めたとい、「ドクターカーの活躍で将来医師を目指す子どもが増えたらいいですね」と笑みを見せます

ドクターカーによる地域救急医療の可能性を研究し、もっと広げることが目標。救急医の後輩たちに病院前救急診療を体験してもらい、育成することも自分の使命だと考えています

ドクターカーの導入が決まったとき、自ら病院前救急診療科を希望して必要な資格を取得しました。間測医師と一緒に富士山のほか山岳診療を経験。やりがいを感じています



長。ドクターカーは救急救命だけでなく、在宅医療や地域包括ケアシステムの維持においても協力しています。

病院前救急診療科を設立 2人1組で24時間要請に対応

2008年、日本初の乗用車型ドクターカーを導入したのは、当時県立多治見病院に勤めていた間測則文医師。県立多治見病院は重篤患者が搬送される拠点病院で、間測医師は麻酔科部長と救急

救命センター長を兼任していましたが、間測医師は理解を得るため市議会でも「市民一人当たり一日約1円の負担でそれまで救えなかった命が助かる」と訴えました。さらに、サイレン音や車の色、医師が救急車に乗り込まなければならぬ場合の駐車違反についてなどを警察署に掛け合ったほか、消防署との連携もすべて自身で調整。そして2013年9月、ドクターカーに特化した日本で初めてとなる「病院前救急診療科」を中津川市民病院に設立したのです。



地元の保育園や幼稚園、小学校へ訪問し、救命講習やドクターカー展示を通して周知に努めています

医師2人、看護師4人の病院前救急診療科のスタッフ。交代で勤務します。全員が無線技士および緊急自動車運転技能者の有資格者で、来年には医師の増員も計画されています



1.消防署から無線連絡を受け、位置情報システムにマップコードを入力すると、隣家と間違えず救急現場に到着できます 2.後部にはより適切な病院を選定するため、心電図や血液データを検査する機器などを積み込み、出動に備えます 3.病院前救急診療科は常に消防署の無線を聞きながら待機。命令があれば、目の前の専用駐車場へ医師も看護師も走って乗り込みます

は低く、間測医師は理解を得るため市議会でも「市民一人当たり一日約1円の負担でそれまで救えなかった命が助かる」と訴えました。さらに、サイレン音や車の色、医師が救急車に乗り込まなければならぬ場合の駐車違反についてなどを警察署に掛け合ったほか、消防署との連携もすべて自身で調整。そして2013年9月、ドクターカーに特化した日本で初めてとなる「病院前救急診療科」を中津川市民病院に設立したのです。

その結果、多くの患者が回復して社会に復帰。患者や家族から感謝の手紙が寄せられ、まちで声を掛けられるときもあります。機能圏域は半径20キロで、よく機能する有効圏は半径10キロ。ドクターヘリはヘリポートもしくは代用できる場所が必要のため、10キロ圏内であればドクターヘリより早く現場に到着し、玄関に横付けできます。

医師2人、看護師4人の病院前救急診療科のスタッフ。交代で勤務します。全員が無線技士および緊急自動車運転技能者の有資格者で、来年には医師の増員も計画されています



サテライトステーションで機能圏を広げ救命に奔走

ドクターカーは有料診療で、1〜2万円の診療料金が発生します。最大の利点は現場で早期に検査や治療を行い、適切な医療機関に搬送できる点。間測医師は「命を救うだけでなく、根治療法ができる病院に直接搬送する」と語り

医師2人、看護師4人の病院前救急診療科のスタッフ。交代で勤務します。全員が無線技士および緊急自動車運転技能者の有資格者で、来年には医師の増員も計画されています

